

第6次中国省長訪日代表团

日本滞在概要

平成14(2002)年5月7日～16日

全 国 知 事 会

写真あり

片山虎之助 総務大臣表敬訪問（総務省）

写真あり

上野公成 内閣官房副長官表敬訪問（首相官邸）

写真あり

植 竹 繁 雄 外務副大臣表敬訪問（外務省）

写真あり

土 屋 義 彦 全国知事会会長・埼玉県知事表敬訪問（知事公館）

写真あり

高橋 和雄 山形県知事表敬訪問（山形県庁）

写真あり

堀 達也 北海道知事主催レセプション（札幌グランドホテル）

は し が き

第 6 次中国省長訪日代表団（団長：陸浩甘肅省省長）8 名は、本会の招待で、平成 14 年 5 月 7 日から 16 日までの 10 日間来日した。

代表団一行は、片山総務大臣、上野内閣官房副長官、植竹外務副大臣の政府要人を表敬訪問したのち、埼玉県、山形県及び北海道の 3 道県を訪問した。

各訪問先では知事等関係者と会談を行い、行政・産業・文化等を視察したほか、経済交流等について経団連中国委員会と懇談を行うなど、日中両国の友好交流の発展と相互理解の緊密化に努めた。

本報告書は、日中国交正常化 30 周年という佳節の年に、同代表団が成田空港に到着し、中国に帰国するまでの滞在概要を報告するものである。

なお、今回の訪日にあたり、ご配慮いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

目 次

1	第6次中国省長訪日代表団名簿	1
2	第6次中国省長訪日代表団滞在日程	2
	(1) 総括	2
	(2) 日別	3
3	要人表敬の概要	13
	(1) 片山虎之助 総務大臣	13
	(2) 上野公成 内閣官房副長官	14
	(3) 植竹繁雄 外務副大臣	16
	(4) 経団連中国委員会	18
4	訪問道県表敬等の概要	26
	(1) 土屋義彦 全国知事会会長・埼玉県知事	26
	(2) 高橋和雄 山形県知事	31
	(3) 堀達也 北海道知事	37
5	資料	40
	(1) 第6次中国省長訪日代表団略歴	40
	(2) 第6次中国省長訪日代表団省・自治区の概要	41
	(3) 中華人民共和国行政区画（省・自治区・直轄市）	43
	(4) 中国日本友好協会	44
	(5) 都道府県と中国省・自治区・直轄市との友好提携状況	45
	(6) 日中知事交流実績一覧	46

1 第6次中国省長訪日代表团名簿

団長 甘肅省省長

陸 浩 (LU HAO) [1947年 4月 28生] 男性

副団長 中日友好協会副会長

陳 永 昌 (CHEN YONGCHANG) [1944年 12月 11生] 男性

団員 チベット自治区副主席

楊 伝 堂 (YANG CHUANTANG) [1954年 5月 7生] 男性

団員 吉林省副省長

劉 淑 英 (LIU SHUYING) [1943年 1月 19生] 女性

団員 山東省副省長

趙 克 志 (ZHAO KEZHI) [1953年 12月 28生] 男性

秘書長 中日友好協会副秘書長

王 秀 雲 (WANG XIUYUN) [1956年 2月 5生] 女性

団員 中日友好協会都市交流・経済交流部長

蔡 紅 (CAI HONG) [1966年 9月 28生] 男性

団員 中日友好協会友好交流副部長

劉 国 亮 (LIU GUOLIANG) [1969年 10月 19生] 男性

2 第6次中国省長訪日代表团滞在日程

(1) 総括

年 月 日	時 間	行 事 内 容 等	宿 泊 地
平成 14 年 5 月 7 日 (火)	15 : 33 18 : 30	成田空港着 (CA925) 全国知事会事務総長主催夕食会 (ホテルニューオータニ)	東京都
5 月 8 日 (水)	10 : 30 11 : 30 13 : 30 16 : 00	片山虎之助総務大臣表敬訪問 (総務省) 上野公成内閣官房副長官表敬訪問 (首相官邸) 植竹繁雄外務副大臣表敬訪問 (外務省) 日立電子行政ショールーム視察 (港区)	東京都
5 月 9 日 (木)	9 : 30 11 : 00 14 : 00 17 : 10 18 : 30	日本銀行見学 (中央区) 経団連中国委員会表敬訪問 (経団連会館) 下町文化・浅草寺視察 (台東区) 土屋義彦全国知事会会長表敬訪問 (埼玉県知事公館) 全国知事会会長主催招宴 (浦和ロイヤルパインズホテル)	埼玉県
5 月 10 日 (金)	10 : 00 12 : 50 14 : 05 18 : 30	埼玉スタジアム 2002 視察 (さいたま市) さいたま新都心視察 (さいたま市) イトーヨーカ堂大宮店視察 (さいたま市) 武大偉駐日中国大使主催夕食会 (中国大使館)	東京都
5 月 11 日 (土)	10 : 05 11 : 00 13 : 00 15 : 49 18 : 00	ビックカメラ有楽町店視察 (千代田区) 東京国際フォーラム視察 (千代田区) 東京駅発 (新幹線つばさ 127) 山形駅着 高橋和雄山形県知事主催レセプション (ホテルメトロポリタン山形)	山形県
5 月 12 日 (日)	10 : 30 13 : 30 15 : 30	蔵王視察 (山形市) 文翔館見学 (山形市) 齋藤茂吉記念館見学 (上山市)	山形県
5 月 13 日 (月)	9 : 25 10 : 55 13 : 30 15 : 15 16 : 20 18 : 30 18 : 50	東北パイオニア株式会社視察 (天童市) ハウスサクランボ農家視察 (東根市) 高橋和雄山形県知事表敬訪問 (山形県庁) 山形空港発 (JAS046) 新千歳空港着 堀達也北海道知事表敬訪問 (札幌グランドホテル) 北海道知事主催レセプション (札幌グランドホテル)	北海道
5 月 14 日 (火)	9 : 45 13 : 05 14 : 55	酪農学園大学視察・留学生との懇談 (江別市) 北海道立食品加工研究センター視察 (江別市) 北海道開拓記念館視察 (札幌市)	北海道
5 月 15 日 (水)	9 : 55 11 : 00 14 : 30 16 : 05	豊平川さけ科学館視察 (札幌市) 羊ヶ丘展望台視察 (札幌市) 新千歳空港発 (JAL512) 羽田空港着	東京都
5 月 16 日 (木)	10 : 40 14 : 55	イオン成田ショッピングセンター視察 (成田市) 成田空港発 (CA926)	

(2) 日 別

第 1 日

5 月 7 日 (火)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
15:33	成田空港着（CA925）	出迎え 中国大使館 毛 = 平参事官 関立彤二等書記官	成田空港 第 2 ターミナル 1 階 1 階「VIP ルーム A8」
16:20	成田空港発（バスで移動）		
17:50	ホテル着	出迎え	ホテルニューオータニ
18:30 20:15	全国知事会事務総長主催夕食会	出席者 中国大使館 邱国洪公使 毛 = 平参事官 関立彤二等書記官 総務省 香山総務審議官 財団法人自治体国際化協会 二橋理事長 全国知事会 嶋津事務総長 遠目塚事務局次長ほか	1 階「桂の間」

第 2 日 5 月 8 日 (水)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
10:00	ホテル発（バスで移動）		
10:30 10:50	総務省表敬訪問	片山総務大臣 中国大使館 毛＝平参事官 関立形二等書記官	総務省
11:30 11:57	首相官邸表敬訪問	上野内閣官房副長官 中国大使館 毛＝平参事官 関立形二等書記官	首相官邸
12:20	昼食		東京プリンスホテル 2階「満楼日園」
13:30 13:55	外務省表敬訪問	植竹外務副大臣 中国大使館 毛＝平参事官 関立形二等書記官	外務省
14:30 15:40	ホテル着		ホテルニューオータニ
16:00 17:45	日立電子行政ショールーム視察	日立製作所公共システム事業部 山中本部長ほか	港区西新橋
19:10 21:30	夕食		ヴァンテアングルーズ
22:00	ホテル着		ホテルニューオータニ

第 3 日 5 月 9 日 (木)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9:00 9:30 10:45	ホテル発（バスで移動） 日本銀行見学	日本銀行 守分情報サービス局長 福永情報サービス局調査役	中央区日本橋
11:00 12:05	経団連中国委員会表敬訪問	中国委員会委員長 森下松下電器産業会長ほか	経団連会館 9階「906号室」
12:40 13:40	昼食		浅草「葵丸進」
14:00 15:30	下町文化・浅草寺視察	浅草寺 木下教科部長ほか	台東区浅草
16:40 17:00	ホテル着		浦和ロイヤルパインズ ホテル
17:10 17:40	全国知事会会長表敬訪問	土屋全国知事会会長 埼玉県知事 嶋津全国知事会事務総長ほか	知事公館「第2応接室」
17:45	ホテル着		浦和ロイヤルパインズ ホテル
18:30 20:30	全国知事会会長主催招宴	土屋全国知事会会長 埼玉県知事 秋谷埼玉県議会議長 嶋津全国知事会事務総長ほか	4階 「ロイヤルプリンセス」

第 4 日 5 月 10 日 (金)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9:30	ホテル発（バスで移動）		
10:00 11:05	埼玉スタジアム 2002 視察	財団法人埼玉県公園緑地協会 島村理事長 埼玉スタジアム 2002 中田事業推進本部副本部長	さいたま市
11:35 12:40	昼食	土屋全国知事会会長 埼玉県知事	さいたまスーパーアリーナ 5 階「聚々苑」
12:50 14:00	さいたま新都心視察	埼玉県新都心 福田建設局長 株式会社さいたまアリーナ 角谷代表取締役社長	さいたま市
14:05 15:30	イトーヨーカ堂大宮店視察		さいたま市
17:10 17:50	ホテル着		ホテルニューオータニ
18:30 20:30	駐日中国大使主催夕食会	武大偉駐日中国大使 毛 平参事官 許金平参事官 関立形二等書記官ほか	中国大使館
21:00	ホテル着		ホテルニューオータニ

第 5 日 5 月 11 日 (土)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9:50	ホテル発（バスで移動）		
10:05 10:45	ビックカメラ有楽町店視察		千代田区丸の内
11:00 11:30	東京国際フォーラム視察		千代田区丸の内
11:40 12:35	昼食		吉祥東京国際フォーラム店
13:00	東京駅発（新幹線つばさ 127）		
15:49	山形駅着		
16:00	ホテル着		ホテルメトロポリタン山形
18:00 20:05	山形県知事主催レセプション	高橋山形県知事 山科山形県議会議長 吉村山形市長ほか	3階「出羽」

第 6 日 5 月 12 日 (日)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9:00	ホテル発（バスで移動）		
10:30 10:53	蔵王視察		山形市
12:12 13:17	昼食		千歳館
13:30 15:05	文翔館見学	山形県生涯学習文化財団 日野館長 佐藤文化振興部長	山形市
15:30 16:35	齋藤茂吉記念館見学	財団法人齋藤茂吉記念館 高橋 研究員	上山市
16:55	ホテル着		ホテルメトロポリタン山形
18:30	夕食		

第 7 日 5 月 13 日 (月)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
8:53	ホテル発（バスで移動）		
9:25 10:48	東北パイオニア株式会社視察	東北パイオニア株式会社 石島代表取締役社長 吉住取締役	天童市
10:55 11:33	ハウスサクランボ農家視察	神町りんご研究所 須藤園主	東根市
11:53 12:55	昼食		馳走舎（山寺風雅の国）
13:30 14:00	山形県知事表敬訪問	高橋山形県知事	山形県庁
15:15	山形県空港発（JAS046）		
16:20	新千歳空港着		
17:50	ホテル着		札幌グランドホテル
18:30 18:45	北海道知事表敬訪問	堀北海道知事	3階「花の間」
18:50 20:20	北海道知事主催レセプション	堀北海道知事 酒井北海道議会議長 孫平在札幌中華人民共 和国総領事館総領事ほか	17階「青雲の間」

第 8 日 5 月 14 日 (火)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9 : 00	ホテル発（バスで移動）		
9 : 45	酪農学園大学視察	酪農学園大学 短期大学部 安宅学長・農学博士	江別市
12 : 05 12 : 55	昼食（留学生との懇談形式）	エクステンションセンター 永幡所長・獣医学部教授 堂地次長・農学部助教授 沖本事務長	
13 : 05 14 : 45	北海道立食品加工研究センター 視察	北海道立食品加工研究センター 田中所長 清水研究部副部長	江別市
14 : 55 16 : 20	北海道開拓記念館視察	北海道開拓記念館 杉本副館長	札幌市
18 : 15	ホテル着		定山溪万世閣ホテル ミリオオーネ
20 : 00	夕食		

第 9 日 5 月 15 日 (水)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9：25	ホテル発（バスで移動）		
9：55 10：50	豊平川さけ科学館視察	財団法人札幌市公園緑化協会 札幌市豊平川さけ科学館 小原さけ科学館管理主任	札幌市
11：00	羊ヶ丘展望台視察		札幌市
11：30 12：30	昼食		羊ヶ丘レストハウス
14：30	新千歳空港発（JAL512）		
16：05	羽田空港着（バスで移動）		
17：15	ホテル着		ホテルニューオータニ
19：00	夕食		

第 10 日 5 月 16 日 (木)

時 間	行事・利用便名等	内容（出席者）等	場所・宿泊ホテル等
9:25	ホテル発（バスで移動）		
10:40 12:10	イオン成田ショッピングセンター 視察		成田市
12:30 13:35	昼食		ヒルトン成田 14階「アイリス」
14:00	成田空港着	見送り 中国大使館 毛 = 平参事官 関立形二等書記官	成田空港 第2ターミナル3階
14:55	成田空港発（CA926）		

3 要人表敬の概要

(1) 片山虎之助 総務大臣／5月8日（水）10：30～10：50

片山総務大臣

陸浩甘肅省省長さんを初め、第6次中国省長訪日代表団の皆さまには、ようこそお越しいただきました。ご来訪を心から歓迎いたします。

今年は日中国交正常化30周年です。日中間では、1972年の日中国交正常化以来、数多くの交流事業が行われています。

2002年「日本年」「中国年」の記念事業では、我々もいろいろ考えています。皆さんの方でもいろいろなお考えがあるでしょうから、両国がお互いによりよくドッキング、ジョイントして、日中国交正常化30周年を盛り上げていきたいと思えます。

日中知事交流は12回開かれていると聞いております。私は昔、静岡県の総務部長を勤めました。静岡県の友好提携先は浙江省でした。また、岡山県では副知事を勤めましたが、岡山県の友好提携先は江西省でした。お互いに交流を盛んに行い、相互理解と友好親善を深め合うのは大切なことだと思います。

この後、表敬や地方視察等が予定されているようですが、この程、首相官邸が新しくなり連休明けに移転しました。新しい首相官邸を是非、拝見してください。

また、日本の旅を満喫していただくとともに、友好親善の実を上げていただきたいと思えます。

陸浩甘肅省省長

今回、第6次中国省長訪日代表団一行は、昨日、日本に着きました。今日は訪日の日程の初日でございます。私達は、早朝から片山総務大臣にお目にかかることを、大変光栄に存じております。

先程、大臣のお話の中にもありましたように、今年、中日国交正常化30周年という節目の年に、私達の中国省長代表団が訪日できたことは、格別に重要な意味をもたらしてくれることと思えます。

ご承知のとおり、中日国交正常化してから、双方の省長・知事の相互訪問は、多くの回数を重ねてきました。このような双方の省長・知事の相互訪問は、両国人民の友好を増進させるとともに、両国の地方政府同士の協力を促進させるために、大きな役割を果たしています。そして、大きな成果を遂げています。

例えば、具体的な実績の一つとしては、わが国のほとんどすべての省、そして地方政府には、日本との友好提携都市があります。わが国の統計数値によりますと、縁組みの数は210以上あります。

私達の甘肅省、チベット自治区、吉林省及び山東省へお出かけください。

(2) 上野公成 内閣官房副長官／5月8日(水) 11:30～11:57

上野内閣官房副長官

ようこそお出でくださいました。先般、4月30日に新首相官邸ができました。皆様のご訪問を心から歓迎いたします。

日本では、ご承知のとおりゴールデンウィークなので、5月3、4、5、6日とお休みでした。ちょうど私も総理と一緒にベトナムやオーストラリアを訪問しておりました関係上、昨日の7日、私自身も新首相官邸に初めて入りました。

本日は、まだ新首相官邸の対応がふなれなところがありまして、バスの中でお待ちしていただき、大変ご迷惑をおかけいたしました。

私は、北京や上海、そして海南島・ボアオのフォーラムにも行かせていただきましたが、ボアオでは、朱鎔基総理と小泉総理との会談が行われています。

今回の訪問は、かなり長い滞在のようですが、今は比較的いい季節です。是非、日本のすみずみまでご覧いただきたいと思います。

今回のご視察は、どちらかというとな北の方ですが、山形県と北海道への訪問が実り多い旅になりますよう、期待しております。

陸浩甘肅省省長

第6次中国省長訪日代表団一行の正式な日程は、今日が初日です。

私達は、落成されたばかりの首相官邸で、上野内閣官房副長官にお目にかかることを非常に嬉しく感じております。

今回、私達一行の訪問のために、全国知事会には行き届いたお手配をしていただきました。

今回、私達の代表団のメンバーは、4つの省・自治区からなっております。少ない数ではありますが、それぞれ代表的なところからまいりました。

例えば、東部沿海地域の山東省からは趙克志副省長、中部・東北地方の吉林省からは劉淑二副省長、最西端のチベット自治区人民政府からは楊伝堂副主席が来ております。そして、中日友好協会の陳永昌副会長も副団長として一緒に来日いたしました。

中日双方の地方政府の首長の交流は長年行われていますが、中国側からは省長とか副省長、日本側からは知事とか副知事が出席しています。

こうした交流を通じて、経済貿易、人的往来、文化交流が盛んに行われ、実績も生まれています。

今年は、特に中日国交正常化30周年という節目でもあり、また、新世紀においてこの種の交流が、双方の友好に寄与していくことを強く願っています。

先程、上野内閣官房副長官が北京や上海、そして海南島・ボアオにも行かれたという話を伺いました。しかし、残念ながら今回訪問した4つの省とか自治区には、まだお越しいただいておりません。是非、チャンスがあれば来ていただきたいと思います。

今日はお忙しいところ時間をセッティングいただきありがとうございました。

上野内閣官房副長官

日本も、各都道府県がある程度権限をもっておりまして、具体的なことは省長さんと知事さんでお話をさせていただく方が、有効なことが多いと思います。また、いろいろいっていただければ、国としてお手伝いできることはさせていただきたいと思います。

ご承知のように、日本の知事さんも選挙で選ばれていますから、一国一城の主というか、自分のエリアについては大きな影響力をもっております。

私は、まだ4つの省・自治区に行ったことがないですけれども、いずれ行きたいと思っておりました。

特に、団長さんの甘粛省はシルクロードがあります。日本のNHKで毎週シルクロードを放送していたのですが、その時から行きたいと思っておりました。

山東省は孔子の故郷です。日本でも高等学校や中学校では論語を学んでいます。小泉総理は今でも論語を愛読しています。

チベット自治区や吉林省は是非一度行ってみたいところです。官邸にいと総理と一緒にしか行けないのです。副長官は二人いまして、総理大臣が外国に行くときにどちらかが一緒に行くのです。官房長官は国内から出られないのです。いずれ、もう少し自由になったら行かせていただきたいと存じます。

陸浩甘粛省省長

歓迎いたします。

上野内閣官房副長官

私の選挙区は群馬県です。埼玉県よりちょっと北です。福田官房長官も群馬県の出身です。群馬県は、福田官房長官のお父さんの福田総理と中曽根総理と小淵総理の3人が同じ選挙区で総理になっています。

前の陳健駐日中国大使と官房長官と私の3人は、大使館でよくご一緒させていただきました。

陳永昌中日友好協会副会長

陳健前駐日中国大使は、現在、ニューヨークの国連本部総会・会議サービス担当の事務次長です。

(3) 植竹繁雄 外務副大臣 / 5月8日(水) 13:30~13:55

植竹外務副大臣

陸浩甘肅省省長を団長とする、第6次中国省長訪日代表団の皆さま方のご来訪を、歓迎いたします。

今年は、特に日中国交正常化30周年、非常に意義ある年でございます。私も2002年「日本年」「中国年」の役員をやらせていただいております。

私は栃木県出身でございます。栃木県には1999年12月に、由緒ある「日光の社寺」が世界遺産に登録されています。この地には中国を初め世界中の人々が訪れています。

中央レベルだけでなく、地方レベルでの両国が交流できるということは、日中両国関係の絆がより深まってきます。

私は、1980年に国会議員に初当選しまして、それから、仲間としょっちゅう中国をお伺いしております。以来、私は貴国に親しい友人がおりまして、深い信頼関係ができています。

私の個人のグループで毎年、北京大学の学生の方々を日本にお招きして、若い世代の交流をしていただいています。これから日中両国を長い目でみていただき、我々の次の時代の絆を深くしていくことが非常に重要だと考えているからです。

先般、李鵬全人代委員長の訪日を初め、孫家正中国文化部長がお出でになりました。その時も次の世代を育てて行くことが非常に意義あることだといわれました。

そして、先程申し上げましたが、地方間レベルでの交流は本当によいことだ、大切にしたいと思えます。私自身も時間に余裕があればまた貴国を訪問したいと思っています。

小泉総理は4月、中国海南島ボアオの「ボアオ・アジア・フォーラム」に出席し、アジア地域内及びアジアと他の地域との協力関係の強化、日中両国関係の発展について述べられています。

私は、陸浩省長さんの甘肅省にあるシルクロードに行くことが念願です。敦煌については、平山画伯から絵の話を伺っておりますが、憧れのシルクロードです。

今回、日本の各地を訪問されますが、本当に一番よい季節です。ゆっくり視察していただき、日本のよさもおわかりいただき、日中両国の一層の発展に寄与していただきたいと思います。

そういう意味では、訪問していただき、本当に感激しております。そして嬉しく思います。

陸浩甘肅省省長

ありがとうございます。今日は、私達中国省長訪日代表団一行の正式な日程の初日であります。そして、植竹外務副大臣にお目にかかれましたことを、大

変光榮に思います。

今回、私達中国省長代表団は、日本の全国知事会の招待により表敬させていただいております。全国知事会に周到な準備をしていただくと同時に、日本政府にも今回の代表団の訪問を大切にさせていただいております。

今朝、片山総務大臣・上野内閣官房副長官を表敬訪問いたしました。そして今、こうして植竹外務副大臣を表敬訪問させていただいております。まさに日本政府が私達の中国代表団を本当に重要視していることにほかなりません。

ご存じのとおり、中国の省・自治区・直轄市、いわゆる地方自治体は既に都道府県・市区町村と友好提携を沢山結んでおります。そして、お互いの交流がますます盛んに行われておりまして、相互理解を深め、相互の友好を増進しております。

地方政府同士の交流、そして地方の人々の人的往来が絶えず発展していくことは、両国の政府間の外交の発展のためにも、多大な役割を果たしていると思います。

このような交流は、いろいろな分野にわたって、既に沢山の実績を蓄積させてまいりました。私達としては、この種の交流を新世紀においてもますます発展させてまいりたいと考えております。双方が努力してさらなる発展に貢献してまいりたいと思います。

先程、植竹外務副大臣のお話では、シルクロードに非常な憧れをおもちになっいらっしゃいます。是非チャンスがございましたならば、甘粛省・シルクロードを訪問していただきたいと存じます。

先程のお話の中にもありました平山郁夫画伯のことですが、平山郁夫先生は、本当に私達甘粛省の敦煌保護のトップとして、敦煌芸術の研究、人材育成のために多大な貢献をしていただいております。平山先生のご寄附をいただきまして、敦煌石窟芸術保護研究陳列センターをつくりました。その建物のオープンの際に、日本から竹下登元総理大臣にみずから敦煌にお越しいただきました。

是非、植竹外務副大臣にもチャンスがございましたなら、今回4つの甘粛省、チベット自治区、吉林省及び山東省に足を運んでいただきたいと思います。

今日は、本当にお忙しいところありがとうございました。

植竹外務副大臣

平山郁夫先生は、今回の日中国交正常化30周年記念行事、2002年「日本年」「中国年」の日本側実行委員会の顧問です。

日中国交正常化30周年記念行事では、文化・経済・貿易・観光・教育・青少年交流など幅広い分野で事業が行われています。

現在、中国から日本へ5000人の方が来られています。そして、日本から中国へは1万人の訪問を行う素晴らしい行事がございました。

中国の省・自治区から来られた皆さま方の一層のお力添えをお願いしたいと存じます。

(4) 経団連中国委員会／5月9日(木) 11:00～12:05

森下中国委員会委員長

陸浩団長、陳永昌副団長を初め、訪日団の皆さん、お忙しい中を経団連にお越しいただき、心から感謝申し上げます。

私は、経済団体連合会の副会長・中国委員会委員長(松下電器産業会長)の森下洋一でございます。

本日は、第6次中国省長訪日代表団御一行の皆さんをお迎えしての、懇談会を開催させていただきます。

代表団の皆さん方は、全国知事会のお招きによりまして、5月7日から16日までの日程で来日されました。東京のほか、埼玉、山形、北海道をご訪問される予定と伺っております。

中国の省長代表団が来日されたのは、今回が6回目だと思いますが、前回の代表団が訪日された5年前にも経団連にお越しいただき、意見交換をさせていただきました。

ご高承のとおり、本年は日中国交正常化30周年という記念すべき年であります。これに伴いまして、両国間の交流がさまざまなレベルで活発化していることはまことに喜ばしい限りであります。

特に、経団連では、中国が昨年末にWTO(世界貿易機関)加盟を果たしたこともあり、今後、貿易や投資などの経済交流がますます活発化すると思えます。

こうした中、本日は訪日代表団の皆さま方から、甘粛省、吉林省、山東省、チベット自治区の実情や投資環境などについて直接お話を伺うことができますことは、大変有意義であると思っております。

経団連の中国委員会の主要なメンバーが今日は出席しております。どうぞ有意義な懇談会になりますように、ご協力をいただきたいと思います。

それでは、早速ではございますが、中国側の皆さんからご様子並びにご説明をいただきたいと思います。

陸浩甘粛省省長

友人の皆さま、おはようございます。中日国交正常化30周年という節目の年に私達省長代表団一行が全国知事会の招待により、日本を訪問させていただいたことは大きな喜びであります。訪問の先々におきまして、日本の皆さまから歓待を受けまして、本当に感激しております。まさに中日両国人民の友好的な感情のあらわれだと、私達は確信しております。

また本日、こうして経団連・中国委員会の方から、わざわざ私達一行のために意見交換の場を設定していただき、本当に感謝しております。

ご承知のとおり、中日国交正常化してから両国はいろいろな分野において友好関係を深めてきました。特に、経済貿易分野において、交流協力は絶えず発展してまいりました。日本は世界でも有名な経済大国、発達国であり、中国に

とってはこれから大いに勉強するところが多々あると思います。

中国は、ご承知のとおり、世界で一番大きい発展途上国としていろいろな面において、例えば資源・エネルギー面、そして技術協力の面において日本と互換性を備えていると思います。相互の経済貿易関係のますますの広がりが両国の経済発展に大きな、そして積極的な役割を果たしています。

こうした全体的な情勢のもとに、私達省長代表団の日本訪問は、まさに地方同士の交流、そして地方政府と日本の企業界、経済界との交流を通じて、どの分野において交流できるか、協力できるかについてを目的として来日しております。双方の地方政府として、企業界の協力は必ずや両国の関係にも寄与できると信じています。

経団連は、私達もかねてからお伺いしておりますが、日本で最大の経済、そして企業家の組織でありまして、日本の経済並びに政治各般において大きな影響力があります。特に経済・貿易などの分野において重要な役割を果たしていると考えています。

今回の交流会を通じて、日本の企業界の皆さま方、経済界の皆さま方と一緒に経済貿易、技術協力等について両国の関係を増進させるために、手を携えて行っていきたいと考えています。

今回の中国省長代表団のメンバーからいいますと、4つの省・自治区からなっております。私の甘粛省と団員の吉林省、山東省、チベット自治区並びに中日友好協会からなっております。

私は、甘粛省の省長を拝命しておりまして、甘粛省の事情について、皆さんにご紹介申し上げたいと思います。

甘粛省は、ご承知のとおり、中国の北西地域、黄河上流に位置し、中華文明の発祥の地という地理環境であります。

甘粛省の総面積はおよそ45万平方キロ、人口は2500万人。漢民族や少数民族が沢山いる省であります。

それと同時に自然資源が非常に豊かな省でもあります。特に非鉄金属、そして石炭、石油、天然ガスは埋蔵量が沢山あります。既に、中国においては、原材料、エネルギーの重要な産地になりつつあります。

自然環境をいいますと、年間の日照時間が長く、昼夜の温度差が大きく、野生動植物の資源が非常に豊かであり、いろいろな農作物、そして経済作物が産出しております。特に漢方薬や果物が豊富なところでもあります。果物とか農作物、漢方薬剤の面においては、海外にもよく知られております。

既に非鉄金属、石油加工、化学、鉄鋼などの工業、機械電子製造、建築材料の製造、そして食品、医薬品等、紡績を主体とする工業体系も完備されております。

このほか甘粛省は、歴史も古く、悠久な歴史をもっており、観光資源も非常に豊富な省であります。

例えば、有名な敦煌莫高窟や天水麦積山石窟などは、内外によく知られています。芸術文化の宝庫でもあります。また、日本の皆さんに親しみのある古代

から有名なシルクロードは甘肅省内に東西合わせて 1600 キロくらいありまして、毎年、日本を含め海外から多くの観光客が訪れています。

鉄道は、中国の最東端の江蘇州の連雲港からオランダのロッテルダムに通じています。甘肅省を通り世界交流の中のヨーロッパとアジアの大陸橋となっています。

甘肅省のメイン都市として蘭州市があります。蘭州市は甘肅省だけの中心ではなくて、中国北西地域の重要な交通・通信の中心点として、商業と貿易が盛んに行われているところでもございます。

中国政府は「西部大開発」という戦略を打ち出していますが、甘肅省もその中の一つでありまして、この得難いチャンスをつかんで、これから内外と協力して甘肅省の経済社会の発展に努めていきたいと思っております。

「西部大開発」の具体的な対応措置としては、いわゆる特徴を生かし、特色ある経済を発展させるために 5 つの対策を講じております。

1 点は、交通、そして水利の建設を重点にして全面的にインフラ施設、投資環境を整備することにあります。例えば、インフラ整備の面においては高速道路を沢山つくりました。また、鉄道の整備、航空業の発展、そしてパイプ輸送、電力ネットワークの整備などの仕事もやってきました。そして高速道路の整備においては、円借款をいただきまして、甘肅省の白銀から寧夏までの高速道路が今年中に完成する予定であります。

2 点は、農作物を植える耕地をやめて、草と木を沢山植える、生態環境の整備に力を入れております。

3 点は、経済構造に対して戦略的な調整をし、第 2 次、第 3 次産業と非公有制の経済の比重を増やす仕事もしてきました。農業分野においては、地域的な長所をいかして品質のよい農産品、果物、園芸製品、そして品質のよい牧畜業を整備し環境に優しい、無公害の食品の開発に力を入れてきました。また、工業分野においてはニューテック、ハイテックを利用して先進的な実用技術を導入し、伝統的な産業構造を転換させ、非鉄金属、石油精製、天然ガスの開発、また特色ある農製品の加工、バイオテクノロジーを利用して医薬品の製造に用いるという産業構造の転換を現在一生懸命やっているところです。

4 点は、教育と科学技術を重要視して人材育成に力を入れ、労働力の素質を向上させようとしております。

5 点は、対外解放をさらに進め、よい投資環境を整備し、国内外から人材、技術、資金を導入して甘肅省の建設発展を促進させようと一生懸命やっております。甘肅省と国内外の経済協力をさらに発展させるため、戦略的な優遇政策を制定いたしました。例えば、市場の参入に対しては国民待遇、投資奨励、税収、土地の利用等々の面において一年の優遇政策をつくり、国内外の投資家に甘肅省に来てもらおうと、一生懸命対策を講じているところです。

ご承知のとおり、中国は既に WTO に加盟しました。これは中国の対外開放が新しい段階に入った一つの証だと思っております。この新しい情勢に対応するため、甘肅省も WTO 関係のルールにのっとって約束事項を遵守し、海外の皆さんと

協力して市場経済の体制改革を一生懸命やって、投資環境を整備し、対外解放の度合いを進めて行きたいと思えます。

中国政府の「西部大開発」の戦略は、甘肅省に沢山のチャンスをもたらしてくれました。と同時に海外からの投資家にもチャンスをもたらしたものと思えます。

特に、WTO加盟は中国と海外との距離を縮めてくれましたし、甘肅省と外国とのさらなる交流協力を新しい条件をつくってくれました。

甘肅省としては、一生懸命投資環境を整備し、日本の投資家の皆さんにも投資や事業を起こしていただけるように、皆さんにサービスを提供し、共同で発展するチャンスを提供してまいりたいと思えます。

劉淑 = 吉林省副省長

友人の皆さんおはようございます。

私は、吉林省から来ました劉淑 = と申します。私が吉林省人民政府の副省長として担当している分野には、次のようなものがあります。特に科学技術の振興、環境保全、衛生、医薬、そして産児制限・計画出産の仕事に携わっています。また、ハイテク技術の振興も担当しています。

これから短い時間を利用して、吉林省の事情をご紹介申し上げます。

吉林省の総面積は 18.74 万平方キロ、総人口は約 2728 万人であります。全国に占める割合は総面積にしても、人口にしても 100 分の 2 であります。また、経済的な面においては、去年の数字ですが、GDP は 2100 億元で、全国的に占める割合は 100 分の 2 です。

以上の数字から、吉林省の全国における地位がおわかりいただけると思えますが、私達は、中途発展地域だと申し上げています。

吉林省は、外国と国境線で接しております。北朝鮮とロシア連邦に接しています。もう一つ、地理環境を申し上げますと、吉林省の下に琿春市という市があります。この市は、日本海まで 15 キロしかない地理環境でありまして、いわば吉林省は日本に一番近い省だといえると思えます。

吉林省を生態環境・地理環境から分けますと、次の 3 つの地域からなります。

1 番は東部地域、いわゆる長白山あたりの範囲を指しておりまして、水利資源、鉱山・エネルギー、鉱山物、森林資源が非常に豊富なところです。また、中国ではだれにも知られている有名な 3 つの宝物があります。朝鮮人参、鹿の角、ミンクの毛皮類、この 3 つの宝は長白山地域でとれます。長白山の一番高いところは 2700 メートルあります。その周辺に休眠中の火山がありまして、火山の関係で最高峰あたりに一つの湖があります。湖の名前は「天池」であります。風光明媚なところで、毎年沢山の観光客が「長白山天池」を標的に訪れております。

2 番は中部地域で松遼平野という地域があり、非常に肥えた黒い土地が広がり、農業が非常に発展しております。穀物の年間の生産高は 200 億キロぐらいありまして、全国の総量の 5% 弱あります。先程申し上げた 2% の土地と人口

で5%の農作物を作っています。その穀物の中で一番多くとれているのはトウモロコシで、全部の7割を占めております。吉林省産のトウモロコシは全国トータルの16%を占めており、全世界の3%を占めております。

3番は西部地域であります。西部地域は科爾沁草原という地域であり、草原や湿地が広がっています。生物の多様性が有名なところですよ。鳥類が沢山います。日本人や中国人の人々に好まれている丹頂鶴も、この草原地域に生息しております。牧畜業も発達しています。

吉林省の工業は専ら中部地域に集中しております。有名な産業と申しますと、第一自動車製造工場があります。第一自動車製造工場と申しますと、「中国自動車工業発祥地」だといわれ、有名であります。また、鉄道の車両やオートバイを製造している産業も沢山ありまして、そのような産業を陸上交通産業と命名しています。

そのほかに、石油化学の産業と農産物の加工産業も発展しています。食料の加工業に関しては、吉林省の農産物の品質がよいので、加工業に非常にプラスになっています。なぜなら品質がよい農産物が産出されているので、環境に優しい食料加工ができる、また有機農産物ができるということで、いわゆる遺伝子組み替えはやっていません。

農業・食料加工のほかに、ハイテク技術の分野においても吉林省はすごく発展しています。今まで日本と韓国の間にある協力で、エレクトロニクスに係る工場を沢山つくりました。液晶ディスプレイを生産しております。またソフトウェアの開発にも力を入れておりまして、電子レンジ識別分野技術開発においても全国の先頭を走っています。

バイオテクノロジーを利用した医薬品開発の面においても、力を入れております。糖尿病に効く薬を開発しております。また、漢方薬は近代技術を取り入れて沢山開発しています。

人材育成、教育に関しても、吉林省は全国的にもすごくリードしています。有名な吉林大学があります。

吉林省は、いろいろな分野で発展していくと思います。皆さんには是非私達と一緒に私達の建設に参加していただきたいと思います。

日本との交通も便利になってきました。2カ月前に長春から仙台までの定期便が開通しました。約2時間の飛行時間で行き来できるようになりました。毎週木曜日と日曜日に往復便が運航されています。

吉林省は、これからも日本の皆さんに協力していただきたいと思います。「共に勝つ」という原則にのっとり、お互いに協力して進めていきたいと思いません。

趙克志山東省副省長

私は、主に2点ご紹介したいと思いません。

1点は、今までの山東省と日本との間の貿易投資に関する実情について。2点は、今年から日本の企業界・経済界に出したこれからの双方の協力できる項

目について、ご紹介したいと思います。

1点は、2001年の山東省と日本との貿易について申し上げます。去年一年間の山東省と日本の輸出輸入のトータルの総額は61億ドルに達しており、対外貿易全額の24%を占めています。2000年度と比べ16.5%増えております。去年末現在、日本から山東省に投資しているプロジェクトは2100件あり、投資総額は30億ドルになっています。山東省政府としては、日本との貿易交流、投資交流を非常に重要視しています。

2点は、今年は省政府と各界といろいろ細かく研究・調査して、127の重点項目に絞って、これから日本との企業界と協力関係をつくりたいと思います。重点項目127点ありますから、ここでご紹介する時間がないので、カタログを差し上げます。

楊伝堂チベット自治区副主席

尊敬する森下先生並びに友人の皆さん、おはようございます。

ご在席の皆さんの中には、チベットにいらした方もいらしゃれば、まだ訪れていない方もいらっしゃると思います。この場をかりて、チベットの状況をご紹介したいと思います。

チベット自治区は、中国の南西辺境に位置しており、総面積は120万平方キロあります。非常に高い位置にあり、平均の海拔は4000メートル以上です。

チベット自治区の特別な悠久な歴史と独特な文化が、観光資源として海外から国内の観光客の目を引いています。神山や伝説の聖湖が沢山あり、非常に風光明媚なところです。

チベット自治区は、独特な地理環境で世界的にも有名であり、「世界の屋根」といわれています。

また、南極、北極がありますが、チベット環境は非常に独特で、「地球の第三極」とも呼ばれています。そして、閉鎖的な地理環境ですから、世界の中で現存しているいわゆる最後の浄土、綺麗な土地だといわれています。この地理環境にちなみまして、チベット自治区は環境に、また体に優しい食品を開発しています。

チベット自治区の農産物は、高山の雪解け水で灌漑し、汚染されていないとても綺麗な農産物です。それと同時に牧場草原面積も広く、中国五大の牧畜地域の一つでもあります。

森林面積は、中国においても広く、第2位を占めています。森林地域には沢山の貴重な動物が生息しており、有名なヤクや、貴重で絶滅に瀕している品種が沢山あります。

また、鉱山物も沢山産出していますし、天然資源のほかに水利、地熱、太陽エネルギー、風力資源の埋蔵量、貯蓄量は全国でもトップを占めています。特に、水のエネルギーは全国の30%を占めており、地熱資源は全国1位を占めています。

これらの非常に恵まれている自然環境、地理環境は、これから大いに開発す

る可能性が潜んでいると思います。チベットの観光資源と投資開発重点項目については、既に皆さんに書類を差し上げていると思います。

チベット自治区を中国が改革解放して、日本とのつながりを結んだのは、全国的にみると割と遅い方であり、1988年から日本との交流が始まりました。遅いとはいえ、発展するスピードは非常に早く、教育、電子産業、自動車、スポーツ、医療衛生の交流、多方面にわたりお互いの協力関係をつくってきました。

例えば、具体的に協力項目を申し上げれば、日中友好協会から寄附をいただき、チベット自治区で2カ所の小学校をつくりました。日本政府の援助によってチベット結核病防止センターという施設もつくりました。

また、日本政府の円借款を利用し、蘭州、青海省及びラサに光ファイバーの通信網を整備して、チベット各族人民に賞賛され、チベット経済発展に寄与しています。

チベット自治区の紹介は以上であります。是非、日本の経済界の皆さんに投資していただき、観光にお越しいただきたいと思います。ありがとうございました。

藤野伊藤忠商事顧問

時間がないので、最後にお伺いします。

今年は非常に黄砂がひどくて、ここ2~3年中国は干ばつが厳しいと伺っています。今年の農業生産等はどうのような状況になるのでしょうか。特に西北地域はなかなか厳しい状況だと思います。

陸浩甘粛省省長

黄砂とは「砂嵐」ですね。黄砂を形成する要因は非常に複雑であります。大ざっぱにいきますと、一つは温暖化の影響だと思います。

砂嵐の源を遡ってみれば、西北地域が一つの地域であり、モンゴルや中央アジアも一つの源だと思います。降雨量の減少と高山、特に雪解け水が少なくなったことも原因の一つです。

甘粛省のことをいいますと、今年5カ月の降雨量の統計をみますと、幸い去年の同期と比べても、そして歴史的にみても少し増えてきている状態です。

昨日、甘粛省に電話をかけました。ゴールデンウィーク、メーデーの時は雨が降りました。中部地域に1回で80ミリの雨が降り、非常にホッとした感じでした。局部地域では大雨で水害になるほど強い雨が沢山降りました。

局部地域においては、気象の様子がよくなっていますが、全体の生態環境を考えますと、砂嵐を防ぐためには大がかりな活動がなければなりません。例えば、地球的温暖化をどのように退治するかを全体的に考えなければなりません。

この砂嵐を退治するために、中国政府も沢山の政策・対策を講じています。例えば、先程、私の話の中で紹介したように、「西部大開発」戦略の一つの重要なポイントは、高地での農産物の栽培をやめて、木とか草を植えようという

「キャンペーン」をしています。

甘肅省の場合、高地で農産物を栽培することをやめて草や木を植える面積は、今年だけで 370 万ムーに達しています。一つの標準として、坂の勾配が 25 度以上の高地は、農作物の栽培をやめ、草と木を植えるという基準があります。

この政策は、穀物を栽培してはいけないということですから、農民に対して政府から補助を出しています。例えば、1 ムー（15 分の 1 ヘクタール）あたり 100 キロの小麦を国から農民に支給する。それと同時に、1 ムーあたり 50 元のお金を支給して、草や木を買う費用として賄うという政策もあります。

そういう補助政策を連続 7 年間とります。7 年経過したら、木も草も茂るようになります。広い面積において穀物の栽培をやめ、草と木を植えようということをまじめにやっていけば、何年か後は必ず生態環境がよくなると思っています。

4 訪問道県表敬等の概要

(1) 土屋義彦 全国知事会会長・埼玉県知事

○ 表敬訪問／5月9日（木）17：10～17：40

土屋全国知事会会長・埼玉県知事

甘肅省省長陸浩閣下を団長とする訪日代表団の皆さま方には、日中国交正常化30周年にあたる記念すべきこの時期に、ようこそ埼玉県へお出でくださいました。心から歓迎申し上げます。

また、訪日代表団副団長で、中日友好協会副会長の陳永昌閣下とは、1999年6月に、私が全国知事会第6次訪中代表団の団長として貴国を訪れ、李嵐清國務院副総理を表敬訪問した際にお目にかかり、親しくおつき合いいただきました。本日ここに再会できたことを大変嬉しく思います。

さて、1972年に当時の田中総理大臣が貴国を訪問し、国交が正常化して以来、この30年間に日中両国間の人的・経済的交流は飛躍的に発展してまいりました。

現在、私が会長を務めている全国知事会でも、日中国交回復後の1974年に第1回の代表団が訪中し、知事と省長との交流事業がスタートしました。1991年の第4次訪中団は、陸浩閣下のおられる甘肅省の省都・蘭州や敦煌を訪問させていただいたと伺っています。

今回で双方の往来は12回を数えますが、21世紀を迎えてから初めてとなります。今回の訪日代表団は、日中両国の相互理解と友好親善を深める上で、まことに意義深いものとなることを確信しています。

私は、常々、「国対国のオフィシャルな外交もさることながら、地方自治体みずからが先頭に立って、草の根外交を展開していくことが、わが国が将来ともに平和国家として生き延びる道である」と考えて、草の根の国際交流や国際協力を積極的に進めてきました。

それだけに、都道府県と省・自治区との定期的な相互交流の実現に、多大なご尽力を賜ってきた中日友好協会の皆さま方には、心から感謝を申し上げます。

「遠くの親類より、近き隣人」という言葉があるとおりに、何といたっても日本と中国は一衣帯水のお隣同士であります。お互いに協力し合って、両国友好の絆をますます強く結び、拡大していかなければならないと思います。

私は、この取り組みが、アジア地域から世界に向けての平和と繁栄を促す力強い呼びかけとなることを強く希望するものであり、これを機に日中友好のさらなる強い「絆」を結べるものと確信しています。

私は、第2次大戦では大変ご迷惑をかけたことを気にしているところです。このようなことが二度とないよう、アジア・太平洋の平和のために種々の交流

を通じ、話し合うことが必要だと思います。

埼玉県には、これまで中心になる都市がありませんでしたが、首都機能の分散化により本県の42ヘクタールのエリアに18機関を本県に移すことになりました。東京都を除く関東エリアに新たな都が誕生したわけです。

これに伴って交通網の整備が課題でありましたが、これについても逐次その整備を推進してきたところです。

また、日韓共同でワールドカップサッカーが開催されますが、本県では国際的にも自慢できる6万3000余収容のサッカースタジアムを建設いたしました。

この施設はサッカーの試合に限らず、防災対策面、青少年等を対象に国際的な広場として、その活用を図っていくことを目的に県民の合意を得てつくったものです。

特に、アジアの子供達を呼び、種々交流の広場とし、もってアジアに貢献していきたいと考えています。このことについては、私がこの程韓国を訪問した折にも話し、その合意を得ているところです。

また、この機会に一つ提案したいことがあります。それは黄砂問題について日中韓の三国間で話し合っていきたいと考えていますので、この点についてご協力をいただきたいと思います。

結びに、貴国のますますのご発展と皆さま方のご健勝を心から祈念して、歓迎の挨拶とさせていただきます。

陸浩甘肅省省長

今回日本を訪問し、土屋全国知事会会長・埼玉県知事閣下にお目にかかれたことを大変嬉しく思います。

また、日本訪問にあたり、全国知事会の方々に行き届いたご手配をしていただくとともに、訪日早々に嶋津事務総長より歓迎レセプションを開催していただき、感謝いたしております。

土屋会長は、日本の有名な政治家であるとかねがね伺っております。参議院議長、埼玉県知事、全国知事会会長の要職を重ねられ、一貫して中日友好にたゆまぬ努力をしておられ、その貢献には心から敬服いたしております。

中日国交正常化30周年にあたり、歴史を鑑として未来に希望をもつことこそ、アジアの発展に寄与するものと思います。土屋知事の多大な貢献に改めて敬意を表すものです。

私は、サッカー場の建設、またこれによる中国等アジアを初めとする世界の交流の場としての有効活用を推進される大きな志に感銘を受けました。そして青少年のサッカー交流等を通じ、相互理解と友好親善を図っていくことは大変意義あることだと共感いたしましたところです。

私は、今回訪日した省・自治区の青少年と友好試合をしてはどうかと思っています。

○ 全国知事会会長・埼玉県知事主催招宴／5月9日（木）18：30～20：30

土屋全国知事会会長・埼玉県知事

甘肅省省長陸浩閣下を団長とする第6次中国省長訪日代表団の皆さま方には、ようこそ埼玉県にお出でくださいました。700万県民を代表して、心から歓迎申し上げます。

この度、皆さま方には、現在、私が会長を務める全国知事会の招聘により来日していただきました。こうした日中知事交流を実施し、日中が友好を一層深めることができるのは、中日友好協会のご協力によるもので、心から感謝申し上げます。

また、先程の表敬訪問でも申し上げたように、副団長でもある中日友好協会副会長の陳永昌閣下とは、私が、中国建国50周年という記念すべき年に、全国知事会第6次訪中代表団の団長として貴国を訪問した際、お目にかかって以来、3年ぶりの対面となり、まさに、「朋あり、遠方より来たる」の言葉どおり、今回の再会を大変嬉しく思います。

私は、参議院議員を27年間、また、参議院議長を3年間務め、その後、故郷埼玉県の知事となり、全国知事会会長として、環境問題など地方自治体を取り巻く様々な課題に全力で取り組んでいます。

また、私は、全国3300自治体の先頭に立って、草の根の国際交流や国際協力を積極的に進めているところであります。

こうした中、中国と日本の自治体の友好提携関係は、実に200を超えており、うち都道府県レベルでは、34を数えるに至っています。

今回ご訪問いただいた中では、甘肅省が秋田県と、吉林省が宮城県と、山東省が山口県、和歌山県とそれぞれ友好提携を結び、交流事業を展開していると伺っています。

埼玉県も、1982年10月に、山西省と友好県省の締結を行って以来、産業、医療、環境など様々な分野で交流を重ねてきています。

折しも今年、日中国交正常化30周年の記念すべき年であると同時に、埼玉県と山西省との友好提携20周年にもあたっており、秋には、私みずから山西省を訪問し、本県と山西省との友好関係を一層深めてまいりたい所存です。

さて、皆さま方は明日、「埼玉スタジアム2002」と「さいたま新都心」を視察されると伺っています。「埼玉スタジアム2002」は、昨年10月にオープンしたアジア最大級のサッカー専用スタジアムであり、今月31日から開催される日韓共催のワールドカップサッカー大会では、準決勝戦や日本代表戦など4試合が予定されています。

中国チームは今大会において、ワールドカップ初出場を果たされるとのことであり、まことに喜ばしいことでもあります。このスタジアムで、日本と中国との対戦が実現することを願っています。

また、「さいたま新都心」は、私が参議院議長時代から、その実現に向け心血を注いできたもので、国の18機関の集団移転が実現するなど、関東の顔、

関東の中心として着実に成長を続けています。

どうか皆さま方には、明日のご視察を通して、埼玉県のよさを肌で感じていただき、今回の滞在を有意義なものとしていただくことを期待申し上げます。

そして、帰国されてからも、引き続き埼玉県や日本との交流を一層深めていただくようお願いいたします。

重ねて陸浩閣下を初めとする訪日代表団のお越しを歓迎申し上げ、皆さま方の滞在中のご健勝とご安泰を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

陸浩甘肅省省長

尊敬する土屋義彦会長・知事閣下並びにご在席の友人の皆さま、今晚は。

私達の第6次中国省長訪日代表団一行は、全国知事会のご招待により日本を訪問いたしました。

今日は、埼玉県にお邪魔することができ大変光栄に存じております。私は一同を代表して、心より感謝申し上げます。

先程より、土屋知事閣下より、心情溢れるご挨拶をいただきました。これはまさに熱い友情のあらわれだと私は感銘を受けました。

この場をおかりして、ご在席の友人の皆さまの私達に対するご歓待に対して、団員一同を代表して感謝の意を表したいと思えます。

今年は中日国交正常化30周年にあたります。30年来、両国の関係は各分野において大きな発展が遂げられてきました。

中日両国の交流も盛んに行われ、そして去年のお互いの貿易額は既に878億ドルに達しています。今、日本はわが国にとって第一の貿易相手国となっています。

その中で、私達のような省長代表団の訪日と、そして知事訪問団が訪中という形の交流に象徴されますように、両国の地方自治体、いわゆる地方政府間の交流も盛んに行われてきました。

1973年に中日間に最初の友好都市が提携されて以来、中国と日本とでは件数のとらえ方が違うかもしれませんが、今現在双方の友好提携都市の縁組みの数は既に215に達しています。

また、中国の各省・自治区等と日本の都道府縣市町村との間に友好交流という形で交流をしている数を入れれば、非常に幅広いものがあると思えます。

この種の地方自治体同士の交流は相互理解、相互の助け合い、両国民の友好を促進させるために積極的な役割を果たしてまいりました。

私ども今回の代表団のメンバーは4つの省・自治区からなっております。

中国東部臨海地域の山東省からの副省長さんも来ております。また、中国の東北地方から吉林省の副省長さんも来ております。そのほかに中国の南西地域、北西地域からそれぞれチベット自治区と甘肅省からも来ております。いわば、中国の中部、東部、そして北西部を代表して来ています。

先程、土屋知事閣下から、中日国交正常化30周年の意義ある今年、埼玉県と友好提携都市である山西省を訪れる予定があるといわれましたが、私どもの

甘肅省・シルクロードにもその折に是非来ていただきたいと思います。

私ども甘肅省にとって、平山郁夫先生は敦煌保護のため、敦煌芸術の研究、人材育成のために本当に多大な貢献をなされております。

平山郁夫先生のご尽力により、敦煌で敦煌石窟芸術保護研究陳列センターという建物がつくられました。この訪日の機会に私はできればお目にかかりお礼を申し上げたいところですが、その時間ありません（この挨拶に対し、土屋知事より、平山先生に甘肅省長さんの意向を伝える旨発言あり、後日、その旨平山先生に伝えられた）。

中日関係は、今日のような良好な局面を得たのは、まさに双方の努力の賜であり、これは双方が大切にすべきものであると思います。

私達は、日本の地方自治体の皆さんと一緒に手を組みながら、未来志向の中日関係を構築していくために協力して頑張っていきたいと思います。

(2) 高橋和雄 山形県知事

○ 山形県知事主催レセプション／5月11日（土）18：00～20：05

高橋山形県知事

皆さん今晚は。今日は、中国から、中国の省長さんの代表団が訪日されました。その日本滞在中の視察日程の一つとして山形県をお訪ねいただき、いろいろな面でご視察いただく予定となっております。

今年は日中国交正常化30周年という意義ある年にあたります。この意義ある年に甘粛省省長さんの陸浩さんを団長として、皆さん方、日本をお訪ねいただき本当にありがとうございます。

山形県のいろいろな状況をご視察いただけるのはまことに光栄であります。皆さんに心から感謝を申し上げます。また、心から歓迎を申し上げます。

日本と中国との関係といえば、各自治体と大変密接な盟約締結をしており、交流が活発に行われています。山形県としても、中国は黒龍江省と友好関係を締結してから、丸10年を迎えています。そういった関係から、教育、スポーツ、経済交流と、幅広く中国との交流を行っているところであります。

県ばかりでなく、市町村、それにまた民間でも幅広く経済交流が行われている実態にあります。日本からはもちろんですけれども、山形県からも中国の各地に企業がお世話になっておりますし、また中国からも山形県に、あるいは日本に大勢の皆さんが視察に来られたり、あるいは経済活動関係でも活躍しております。

この度の訪日は10日間という短い期間ではありますが、中国の皆さん方に親しく日本を視察していただくということは非常に意義あることだと思っています。

山形県の状況を申し上げますと、1次産業の農業と2次産業ではいろいろな面で製造業が活発に行われてきています。流通関係では、山形県とすれば、これからというところかなと思っています。農業では、特に果樹、それに米といったところが主たるものでしょう。製造業では電子工業、地場産業としては繊維、鋳物、木工という分野であります。山形県は農業県でもありますので、食品加工業ということも相当盛んに行われていまして、こういった関係では中国とも非常に大きな交流があろうかと思っています。

陸浩甘粛省省長さんを団長とする今回の視察の内容をみてみますと、スポーツやら教育の関係から、農業、それに2次産業と幅広くご視察なさるようでございますので、山形県内においても、いろいろな面をご視察いただきたいと思っています。

山形県は日本における人口が1%、県民所得、あるいは生産が大体1%というところで、ご認識いただければよろしいのではないかと思っています。

今日は県内からいろいろな関係の方がみえておりますから、後程そういった方々からもお話があろうかと思っておりますので、この程度で終わりますが、陸浩甘

肅省省長さんを団長とするご一行の皆さん方の視察が意義あるように、またこれからの視察にも体調には気をつけてご視察が無事終わりますことを念願いたします。

今宵はゆっくりとご懇談いただければと思っています。ありがとうございます。

陸浩甘肅省省長

尊敬する高橋和雄知事先生並びに山科朝雄議長先生、松浦安雄副議長先生、ご在席の友人の皆さま、今晚は。

私達第6次中国省長訪日代表団一行は、全国知事会のご招待にあずかりまして御国を訪問しているところであります。

今日は、光栄にも山形県にお邪魔する機会に恵まれまして、私は代表団一同を代表して心より感謝申し上げます。

先程、高橋和雄知事先生より、情熱のこもったご挨拶を拝聴いたしました。これはまさに山形県民の中国人民に対する熱い友人のあらわれだと私は受けとめております。

山形県の高橋和雄知事先生を初めとするご在席の友人の皆さま、私達に対するご歓待に対し、団員一同を代表して感謝の意を表したいと思えます。

今年は中日国交正常化30周年にあたります。30年来、両国の関係は各分野において大きな発展を遂げられてきました。両国のハイレベルの交流も、人的往来も盛んに行われ、そして去年のお互いの貿易額は既に878億ドルに達しています。今、日本はわが国にとって第一の貿易相手国となっています。

その中に、私達のような省長代表団とそして知事訪問団が訪中されるこういう形の交流に象徴されてますように、両国の地方自治体、いわゆる地方政府同士の交流も盛んに行われてきました。

1973年に中日間に最初の友好都市が提携されて以来、今現在双方の友好提携都市の縁組みの数が既に215に達しています。それと同時に中国の各省・自治区等と日本の都道府縣市町村との間に友好交流という形で交流している数を入れれば、非常に幅が広いものがあると思えます。この種の地方自治体同士の交流は地方自治体同士の相互理解、相互助け合い、両国人民の友好を促進させるために積極的な役割を果たしてまいりました。

今回、私達の代表団のメンバーは、幾つかの省・自治区から構成されています。中国東部臨海地域の山東省から副省長さんも来ています。また、中国の東北地方から吉林省の副省長さんも来ています。そのほかに、中国の南西地域、北西地域からそれぞれチベット自治区の副主席と私甘肅省からも来ています。人数からいいますとそんなに多くはありませんけれども、中国の中部、東部、そして北西部を代表して来ています。

この場をおかりして、山形県の友人の皆さま方に、是非私達のこの4つの省・自治区に観光や投資産業を起こすために来ていただきたい、ご招待・ご歓迎を申し上げます。

私と団員の一人でいらっしゃる吉林省の副省長劉淑＝女史は、本県と友好提携をされている中国黒龍江省の出身であります。私と劉淑＝副省長は、故郷を離れてよそで仕事に従事していますが、先程の高橋和雄知事先生の話によりますと、山形県とわが国黒龍江省が友好提携されて 10 年目を迎えたと言いました。

また、いろいろご紹介を拝聴いたしますと、山形県と黒龍江省は締結されて以来、双方は各分野において大きな交流が行われてきて、大きな成果を遂げられてきました。

明日から私達代表団一行は、ご手配により山形県の企業、農業、あるいはそのほかの文化施設を見学させていただくことになっています。私は、これらの視察を通じて、必ずや私達のこれからの仕事に、そして自分自身の省・自治区の発展のために寄与できると信じています。と同時に、これらの視察を通じて、必ずや私達の省、そして自治区と山形県との間のこれからの相互協力のために、共通点あるいは協力できる分野が見出せることができると思います。

当面、中日両国は、中日国交正常化 30 周年をいろいろな行事で慶祝事業を進められています。中日関係が今日のような良好な局面を得たのは、まさに双方の努力の賜でありまして、これは双方が大切にすべきものであると思います。

私達は、日本の地方自治体の皆さんと一緒に手を組みながら、未来志向の中日関係を構築していくために、協力して頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

○ 山形県知事表敬訪問／5月13日（月）13：30～14：00

高橋山形県知事

陸浩甘肅省省長さんを初め、団員の皆さん、お忙しい中、山形県にお越しただいて光栄です。

山形県は、本州東北部の日本海側に位置する風光明媚な地域です。山、川、海と変化に富んだ自然環境の中で、124万人の県民が生活しています。北は秋田県、南東は宮城、福島、両県、西南は新潟県の4県に隣接しています。面積は陸浩省長さんの甘肅省の50分の1くらいです。

日本では、太平洋側と日本海側は相当はっきりしています。人口は圧倒的に太平洋ベルト地帯に多いし、そこには工業や生産の場所が多くあります。山形県は日本海側にありますけれども、近年では工業化も進みまして、日本経済の1%という役割を果たしています。

毎年ですけれども、ハルピンで国際見本市・展示会が行われるにあたっては、山形県は30ないし40のブースをいただき、出展して、その都度、いろいろな契約なども結びまして、経済的な環境はできているのではないのでしょうか。

今年も出展することをお願いすることと思います。その時機に吉林省であれば劉淑＝先生に、また皆さんの地域でお会いする機会があるかもしれません。

陸浩甘肅省省長さんを初め、団員の皆さん、山形県ご訪問の印象はいかがでしたでしょうか。

陸浩甘肅省省長

高橋和雄知事先生のご配慮のもとに、県庁の方々を初め皆さん、私達一行を親切に対応していただきました。また、あちこち訪問させていただいて、感謝いたしております。滞在期間は一両日しかありませんけれども、いろいろな見学があり、非常に有意義な、そして充実した旅になったと私は思っています。

昨日の午前中は蔵王に行って来ました。午後には、文翔館に行きまして、山形の歴史に関する勉強もしてきました。特に、解説にありました文翔館は、まさに高橋和雄知事先生のご決断・ご英断によって、今のような綺麗に完璧に整備されてきたことを伺って、本当に有意義なことだと思っております。そして、この文翔館を活用して、特に青少年に山形県の歴史について認識を深めさせるために、郷土愛を増進させるために、それなりに役割を果たしていると思われました。

また、齋藤茂吉記念館にも行ってまいりました。日本にかつてこのような立派な文学者がいたことがわかりました。わが国には魯迅という有名な文学者がおりまして、ほぼ齋藤茂吉と同時代の人であります。ともに自国、そして世界に相当影響を与えている大先輩だったことも学びました。山形出身の方でいらっしゃると思いますので、恐らく山形県民の誇りであり、非常に大きな存在であったと思います。

今日の午前中は、東北パイオニアにお邪魔しまして、スピーカーに関する設計・研究・開発をいろいろ紹介してもらいまして、本当に進んでいるという印象をもちました。

高橋山形県知事

中国では上海にパイオニアのスピーカーの専門工場が設立されています。

陸浩甘肅省省長

東北パイオニアについて、いろいろ解説していただきました。工場の写真を拝見いたしますと、上海のパイオニアは、東北パイオニアよりスケールが大きいと思います。見学した時に責任者に対し、中国での事業がますます発展されることをお祈りしまして、またチャンスがあれば私達4つの省・自治区も協力できればという話もいたしました。

パイオニアといえば、知名度の高い企業です。中国でもよく知られています。東北パイオニア本社が山形にあるのを初めて拝聴いたしまして、びっくりいたしました。

また、午前中にサクランボの農家にもお邪魔いたしました。サクランボのハウス栽培農家の説明によれば、露地栽培よりも大体1カ月か、2カ月収穫が早くできるとのこと。ハウス栽培ですから、害虫の防止とかいろいろな面において技術的に進んでいるという印象を受けました。

ハウス栽培は、中国もよくやっていますが、大体野菜が主流です。果物も少しありますが、果樹そのものをハウスで栽培というのは少ないです。例えば、山東省は桃のハウス栽培をしています。特別な品種で木の背の低い品種です。太い果樹のハウス栽培は珍しいです。

今回、山形県での一両日の見学を通じまして、私達一同の共通的な認識として、山形県の経済はすごく発展してるし、それと同時に環境がすごく綺麗に保全されており、経済発展と環境保全の問題をうまく解決してるという印象を受けました。これからの私達の仕事にプラスの材料になると思います。

私達が今求めているのは、人と自然との調和でして、経済持続の可能な発展のために環境保全が大変重要な課題になっていると思います。

中国はご承知のとおり、発展途上国の一つの国でありまして、日本のいろいろな経済発展、環境保全におけるノウハウや経験は、これから勉強しなくてはいけないと思います。

高橋山形県知事

日本でもいろいろな環境問題の課題が出てきました。乱開発であるとか、このように発展してしまうと、方向転換する時になると、残骸や後始末が大きな問題になりますので、そういうことを計画しながらやっていく必要があると思います。

一時は、中古車の山があちこちにみえたのですが、最近では中古車を分解しながら廃棄物処理する、あるいはリサイクルできるものについてはリサイクルに回すということが進みつつあります。最初から計画してやっていけばいいと思います。

陸浩甘肅省省長

山形県は日本一美しいところではないかと認識しています。私達は団員とも

話していますが、まさにスイスに行ったような感じがいたします。

昨日、高橋和雄知事先生は今年中にウルムチにいらっしゃると話されました。ウルムチといいますと、敦煌のすぐそばですから、高橋和雄知事先生がウルムチに行く前に敦煌に滞在されて、シルクロードの最も優れた部分を見学されたら、もっと有意義になるのではないかと思います。

敦煌の最たる文物といいますと、莫高窟があります。莫高窟といいますと、有名なのは2000年前から中国の清の時代まで、大体1500年間の壁画がそのまま残されています。日本の前の、今は亡き竹下登首相が敦煌にお出でになったことがあります。また、もう一人日本の社会活動家でもある有名な画家、平山郁夫先生が何度も敦煌にお出でになっています。

甘肅省省都の蘭州では、毎年8月26日に蘭州国際貿易見本市が行われています。規模からいうとハルピンの見本市と同じくらいではないでしょうか。場所は蘭州ですが、国からご指導・ご協力をいただいて何回も行われてきた国際的な見本市です。この見本市も「西部大開発」という国家プロジェクトの一環として行われています。

是非、チャンスがございましたら、高橋和雄知事先生に私どもの甘肅省、チベット自治区、吉林省、山東省にお越しいただきたいと思っております。

(3) 堀 達也 北海道知事

○ 北海道知事表敬訪問／5月13日（月）18：30～18：45

堀北海道知事

甘肅省省長陸浩団長を初め、中国省長訪日代表団の皆さまの御来道を、570万道民を代表して心から歓迎申し上げます。

北海道は、様々な分野で中国と交流を図っており、私が先月、遼寧省、黒龍江省などを訪問した際にも各地で心温まる歓迎を受けたところであります。

日本を訪問されて1週間がたち、代表団の皆さまはお疲れのことと思います。が、北海道はこの時期、いろいろな花が一斉に開花し、一年のうちで最も美しい季節を迎えています。

私は、この素晴らしい季節に皆さまを北海道にお迎えできたことを、大変嬉しく思います。限られた時間ではありますが、皆さまの本道での視察が、友好を深め、意義あるものとなれば幸いに存じます。

陸浩甘肅省省長

ありがとうございます。中国省長訪日代表団を代表してご挨拶申し上げます。

私達は、光栄にも北海道に来られ、尊敬する堀達也知事先生に表敬の機会をいただき感謝申し上げます。

私達の代表団は、甘肅省、チベット自治区、吉林省及び山東省の4つの地域と中日友好協会で訪日いたしました。

今年は、中日国交正常化30周年を迎えます。この節目の年に日本を訪問できたことは、格別な意義があると思います。

ご承知のように、中日国交正常化以来、両国の知事が活発に交流を図るなど、両国政府、自治体、人民、各レベルで交流を進め大きな成果を得てまいりました。

北海道開発の歴史と経験は、中国「西部大開発」の私達の計画に、大きな参考となると考えており、明日からの視察を楽しみにしております。

○ 北海道知事主催レセプション／5月13日（月）18：50～20：20

堀北海道知事

先程、陸浩団長からお話がありましたように、日中国交回復30周年の大変記念すべき年に、陸浩甘肅省省長を団長とする中国訪日代表団の皆さまをお迎えできますことを大変嬉しく思います。

この場には、私どもの最も身近な友人でもあります孫平総領事にも出席していただいております。心から厚く感謝申し上げます。

中国各地と北海道とは、最近では、例えば、瀋陽市、上海市と新千歳空港が航空路で結ばれ、大変身近な存在になりました。私ども経済交流も含めて、様々な交流が深まっているとの思いを強くしています。

北海道と黒龍江省との友好提携も今年で16年目を迎えています。この間、経済交流はもとより、農業、医療、スポーツなど様々な分野にわたる積極的な交流が進められています。

1998年には江沢民国家主席閣下を北海道に迎えることができました。その際、私がお約束した「日中の『友好の森』づくり」も一昨年から今年4月にかけての3年で、この友好の森づくりの事業を終えることができました。

今年は私が団長として200人の道民の皆さんとともに遼寧省の阜新市にまいりまして、北海道を故郷とする、約2500本の苗木を植えてまいりました。来年からは友好提携先であります黒龍江省と、この事業を一緒にやりたいと省長と約束してまいりました。これからも私ども、積極的に中国の各地域と友好の絆を深めて行きたいと思っております。

中国訪日代表団の皆さま方もこのようなご縁でめぐり会うことができましたので、これをきっかけにさらなる交流ができればと思っております。

皆さまは、明日から北海道の酪農について、ご視察されると伺っております。北海道の歴史は本格的に開拓がされてから133年になりますが、短い歴史の中でここまで発展することができたことは、私ども道民が一つの誇りとするところであります。

明日からの視察が皆さまにとって、有意義でそして楽しい旅でありますよう、これからの日中友好のために、お互いにそれぞれの立場でご尽力いただきますことを、心から祈念いたしまして歓迎のご挨拶といたします。

陸浩甘肅省省長

尊敬する堀達也知事先生、酒井芳秀議長先生、ご在席の友人の皆さま、今晚は。私達第6次中国省長訪日代表団一行は、今日の午後、北海道に着きました。そして道庁の関係者の皆さまに、熱烈な歓迎を受け、今晚こうして堀達也知事先生に盛大な会を催していただき感謝申し上げます。

中日両国は、一衣帯水の間柄、お互い大切な隣国であります。中日国交正常化30年来、両国関係が各分野において大きな発展を遂げ、沢山の成果をおさめてきました。

両国の間に、今日のような友好関係を構築できたことは、まさに先程堀達也知事先生がおっしゃったように国と国との関係以外に、地方政府同士、日本においては都道府県・市区町村、中国においては省・自治区・直轄市になりますが、お互いに盛んに交流を重ね理解を増進し、交流してきた結果だと考えております。

私は、中日両国がこれからさらなる交流を深めることは、両国にとって、両国の人民に寄与するものであると思います。

この両国の良好な友好関係を築けたことは、堀達也知事先生を初めとするご在席の皆さま方と、今回訪問させていただきました各都市の関係者の努力の賜であると確信しております。

堀達也知事先生の先程の挨拶の中で、知事先生は既に中国各地を訪れていると話されました。また、北海道とわが国の黒龍江省が友好関係を結んでいるとも伺いました。

私達の甘肅省は、秋田県と友好提携を結んでおり、今年で20周年を迎えます。秋田県と甘肅省との交流も時間がたつにつれて、大きな成果を上げてきました。例えば、経済交流、文化交流、科学技術、スポーツなど多分野において交流をしてきました。今年の10月に秋田県で大きな慶祝のイベントを開くことになっています。

今回の訪問団の中では、甘肅省、吉林省、山東省のそれぞれの省が日本との交流相手があり、ともに交流の実績を上げてまいりました。しかし、楊伝堂副主席のチベット自治区は、本当に神秘的なところですが、残念ながら日本にはまだ交流相手がおられません。北海道はこのチャンスを是非逃がさないようにとお願いをします。

私は今回3度目の訪日となりますが、北海道は今回が初めての訪問です。北海道は本当に魅力的です。憧れの地に訪れることができ嬉しく思います。特に北海道の開発、開拓の経験は、私どもが今進めている「西部大開発」に非常に参考になると思います。

私は、かつて津軽海峡のトンネルをつくる日本の映画をみました。大変な作業であったと感じました。今回の短い訪問ではありますが、明日からの視察を通じて北海道の開発の成功した経験、そしてやり方を勉強して帰りたいと思います。

堀達也知事先生は、わが国の様々な地を訪問されていると伺いましたが、私達の省・自治区にはまだ来られておりません。この場をおかりして、4つの省・自治区を代表して、堀達也知事先生、酒井芳秀議長先生、ご在席の北海道の友人の皆さんにチャンスがありましたら、是非、4つの地域に招待をしたいと思っております。

改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。

5 資料

(1) 第6次中国省長訪日代表団略歴

- | | | | |
|-----|---|------------|----|
| 団 長 | 陸 浩 (LU HAO) | 甘肅省省長 | 男性 |
| | 1947年4月28日生れ、1967年遼寧省沈陽化工学校卒業、甘肅省の工場に就職、大連工学院化学工学部で勉強、1978年藍州大学入学、1982年中国共産党甘肅省委員会弁公庁秘書に就任、甘肅省組織部副部長、同部長、藍州市党書記長、1998年甘肅省副党書記長を歴任後2001年より現職。(55歳) | | |
| 副団長 | 陳 永 昌 (CHEN YONGCHANG) | 中日友好協会副会長 | 男性 |
| | 1944年12月11日生れ、北京外国語大学卒業、中日友好協会理事、同副秘書長、中国人民対外友好協会文化交流部長などを歴任、1995年中日友好協会副会長、中国人民対外友好協会副会長に就任、中国国際友好都市連合会副会長、中国友好平和発展基金を兼任(57歳) | | |
| 団 員 | 楊 伝 堂 (YANG CHUANTANG) | チベット自治区副主席 | 男性 |
| | 1954年5月7日生れ、1972年6月山東省勝利石油化学工業工場に勤務後、山東師範大学で研修、齊魯石油化学工業会社勤務、山東省青年幹部管理学院院長、山東省共産党委員会常務委員等を歴任後、1993年12月より現職。(48歳) | | |
| 団 員 | 劉 淑 英 (LIU SHUYING) | 吉林省副省長 | 女性 |
| | 1943年1月19日生れ、1965年中国科学院長春応用化学研究所に勤務後、1979年アメリカカリフォルニア大学研修員に就任、同大学化学学部・博士取得、長春応用化学研究所研究員、学術委員会副主任、南開大学教授兼任、Journal of Mass Spectrometry 編集委員等を歴任後1994年より現職。(59歳) | | |
| 団 員 | 趙 克 志 (ZHAO KEZHI) | 山東省副省長 | 男性 |
| | 1953年12月28日生れ、1984年山東省菜西県県長に就任後、山東省即墨市市長、山東省建設委員会副主任、山東省建設委員会主任、山東省徳州市共産党委員会書記等を歴任後2001年2月より現職。(48歳) | | |

(2) 第6次中国省長訪日代表団省・自治区の概要

省・自治区	概 要 (地勢、気候、産業、交通等)	
<p>甘肅省</p>	<p>省都：蘭州</p> <p>面積 45.43 万 km²</p> <p>人口 2,494 万人</p>	<p>甘肅省（友好提携：秋田県）は中国の北西、黄河上流域に位置し、陝西省、四川省、青海省及び内蒙古自治区、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区と境を接している。気候は大陸性で、冬は寒さが厳しく、年間気温差は 29 度以上ある。</p> <p>甘肅省は非鉄金属を中心に鉱物資源が豊富で、主にニッケル、コバルト、銅、鉛、亜鉛、アンモニア、石油、天然ガス、石炭、鉄などを産する。原油産出量は全国 11 位で王門油田と長慶油田がある。工業では非鉄金属、石油加工、化学、鉄鋼などが盛ん。</p> <p>甘肅省は広大な草原に恵まれているため畜産が盛んで、羊などの飼育頭数が多い。農業では主に小麦、トウモロコシ、綿花、甜菜、リンゴ、梨、白蘭瓜などを産する。特に隴南山地区は党参、大黃、甘草などの漢方薬材の重要産地である。</p> <p>甘肅省は古来、シルクロードの通路にあたり、東西交流の最重要地点であり、世界文化遺産である敦煌の莫高窟や鳴沙山、天水の麦積山石窟、炳靈寺石窟など貴重な文化遺産を有する。</p> <p>甘肅省は中国政府が打ち出した「西部大開発」計画の対象地域の一つである。西部大開発戦略の実施は、甘肅省の発展の加速のために千載一遇の歴史的チャンスをもたらし、WTO 加盟とともに甘肅省への直接投資の拡大などが期待される。</p>
<p>チベット自治区</p>	<p>区都：ラサ</p> <p>面積 120 万 km²</p> <p>人口 262 万人</p>	<p>チベット自治区は中国の南西部に位置し、ミャンマ、インド、ネパールなどの国に国境を接している。総面積は全国土の 12.8 %を占め、ヒマラヤ、崑崙、タングラの各山脈に囲まれ青蔵高原を中心に平均海拔は 4000m 以上あり、「世界の屋根」と呼ばれている。</p> <p>チベット自治区はチベット族を主とする少数民族自治区であり、人口 262 万人の中に、チベット族は 241.11 万人で、全人口の 92.2%を占め、漢民族は 15.53 万人で、5.9%を占めている。ほとんどの人は仏教の一派・ラマ教を信仰しているが、イスラム教とカトリックの信者もいる。</p> <p>チベット自治区は気候と地質がバラエティーに富み、自然資源がとても豊富である。熱帯から寒帯までの樹種が目につき、中国最大の林業区の一つになっている。26 種類の鉱物の貯蔵量は全国で上位を占め、地熱、水力、風力、太陽エネルギーなどの開発の潜在力が目立つ。</p> <p>チベット自治区はかつて立ち後れていたが、全国の援助を受け、全く工業がない段階から、2000 年の GDP は 117 億元に達し、1959 年の 60 倍にまで発展を遂げてきた。現在、農民及び牧民の年間収入は 1325 元に達し、都市部の住民は 6385 元に増加し、平均寿命は 1950 年代の 36 歳から現在は 67 歳にまで伸びている。</p> <p>チベット自治区は交通通信、観光業なども著しく発展し、中国の西部大開発を契機にさらに近代化と繁栄へと邁進する。</p>

省・自治区	概 要（地勢、気候、産業、交通等）	
吉林省	省都：長春 面積 18.74 万 km ² 人口 2,728 万人	<p>吉林省（友好提携：宮城県）は中国の東北地方の中部に位置し、東西最長は約 750 キロ、南北最大幅は約 600 キロ。総面積は全国土の約 2% を占め、全国で 14 番目の広さを有し、日本の面積の約半分。東部はロシアに隣接し、南東は図＝江と鴨緑江を隔てて北朝鮮を望む。南部は遼寧省、西部は内モンゴル自治区、北部は黒龍江省に接している。漢民族、朝鮮族、満族など 43 民族からなる。</p> <p>吉林省は世界的にも有名な“長白山”があり、松花江、遼河、図＝江、鴨緑江など多くの河川の源流がある。気候は北温帯季節風大陸性気候で、四季がはっきりしている。年平均気温がマイナス 3 から 7 度の間で、年間の平均降水量は 350～1000 ミリ。</p> <p>吉林省は中国の主要な食糧生産基地で、一人あたりの食糧占有率、商品率、トウモロコシの輸出量などの指標は 11 年連続全国のトップにランクされている。</p> <p>吉林省は中国の重工業生産基地であり、自動車工業と化学工業を中心に、機械、医薬、食品、電子、森林などの部門で全国の重要な位置を占めている。</p> <p>吉林省の鉄道網は整備されており、ハルビン～大連の幹線が省を縦断しているのをはじめ、瀋陽～吉林、四平～梅河口～集安、長春～図＝、長春～白城などが結ばれ、高速道路も建設が進む。空港は長春、吉林、延吉、通化、白城にあり、各地と結ばれている。</p>
山東省	省都：済南 面積 15.67 万 km ² 人口 9,079 万人	<p>山東省（友好提携：山口県・和歌山県）は中国の東部沿海に位置し、半島部と内陸部に分かれ、日本とは一衣帯水の地にある。大陸海岸線は 3024 キロ、296 の大小の島嶼と 3900km² の干潟がある。気候は半島の沿海部は海洋性で比較的温和、内陸部は大陸性季節風気候で夏季と冬季の温度差が大きい。年間の降水量は 500～950 ミリ。</p> <p>山東省は歴史が悠久で、中国古代文明の発祥地の一つであり、中国で最も古い文字や城壁が発見され、孔子をはじめ孟子・孫子・諸葛孔明等の著名な思想家、軍事家を輩出している。</p> <p>山東省は物産の豊かな所で、昔から「食糧の倉庫」、「野菜畑」、「果樹園」等の美称がある。落花生、食糧及び野菜、果物の生産量は中国第一位。また、海産品の生産量及び輸出量ともに中国第一位である。</p> <p>山東省は金、硫黄、ダイヤモンド、石膏の埋蔵量が中国第一位。石油・石墨・マグサイトは第二位。石油・天然ガス・鉄・大理石などの埋蔵量は中国でも重要な位置にランクされている。</p> <p>山東省は中国沿海部の重要な経済地区である。対外経済貿易は活発で 2000 年の GDP は 1030 億ドル、輸出入総額は 249.9 億ドルで前年に比べ 36.8% 増。</p> <p>山東省内の道路は四方八方に通じ、総距離は 6.5 万キロ、高速道路は 2000 キロで全国の 1/8 を占めている。空港は 9 ヶ所でその内の 3 ヶ所は国際空港である。港は 26 ヶ所で年間の取扱量は 1.4 億トンである。</p>

(3) 中華人民共和国行政区画（省・自治区・直轄市）
写真あり

(4) 中国日本友好協会

中国日本友好協会
China-Japan Friendship Association

1 所在地 中華人民共和国 北京市台基廠大街 1 号

TEL 86-10-6512-1436 (FAX 兼用)

86-10-6512-2476

2 設 立 1963 年 (昭和 38 年) 10 月 4 日

3 目 的 中国と日本との友好親善の促進

4 主要役職員

会 長	宋 健 (1998 年 6 月 10 日)
副 会 長	王效賢、宗之光、黄世明、肖向前、林林、文遲、陳永昌
秘 書 長	吳瑞鈞
副秘書長	李鉄民、王秀雲
友好交流部長	劉子敬
政治交流部長	袁敏道
經濟交流・都市交流部長	蔡 紅

5 沿 革

中国日本友好協会 (略称・中日友好協会) は、1963 年 (昭和 38 年) 10 月 4 日、北京で結成された。

結成にあたっては、中国人民對外友好協会をはじめ、中華全国青年連合会、中華全国婦女連合会や中国文学芸術界連合会など各分野の 19 団体が参加、名誉会長に郭沫若氏、会長に廖承志氏、以下各界代表が役員に就任した。

以来、同協会は、日中間・各分野の民間交流の総合的な窓口として活動し、日中国交正常化に大きな貢献をした。

国交正常化後も。引き続き両国間の友好都市提携の促進、日中經濟交流の斡旋をはじめ、日中新時代にふさわしく広範な分野で日本の各界との諸交流を推進している。

(5) 都道府県と中国省・自治区・直轄市との友好提携状況

(2002. 4. 1現在)

	都道府県名	中国省・区・市名	提携年月日
1	東京都	北京市	1979. 3. 14
2	愛知県	江蘇省	1980. 7. 28
3	大阪府	上海市	1980. 11. 21
4	静岡県	浙江省	1982. 4. 20
5	熊本県	広西壮族自治区	1982. 5. 20
6	秋田県	甘肅省	1982. 8. 5
7	山口県	山東省	1982. 8. 12
8	長崎県	福建省	1982. 10. 16
9	埼玉県	山西省	1982. 10. 27
10	兵庫県	広東省	1983. 3. 23
11	滋賀県	湖南省	1983. 3. 25
12	神奈川県	遼寧省	1983. 5. 12
13	京都府	陝西省	1983. 7. 16
14	新潟県	黒龍江省	1983. 8. 5
15	長野県	河北省	1983. 11. 11
16	和歌山県	山東省	1984. 4. 18
17	富山県	遼寧省	1984. 5. 9
18	広島県	四川省	1984. 9. 17
19	山梨県	四川省	1985. 6. 18
20	鳥取県	河北省	1986. 6. 9
21	北海道	黒龍江省	1986. 6. 13
22	三重県	河南省	1986. 11. 19
23	宮城県	吉林省	1987. 6. 1
24	岐阜県	江西省	1988. 6. 21
25	兵庫県	海南省	1990. 9. 28
26	岡山県	江西省	1992. 6. 1
27	福岡県	江蘇省	1992. 11. 4
28	山形県	黒龍江省	1993. 8. 10
29	福井県	浙江省	1993. 10. 6
30	島根県	寧夏回族自治区	1993. 10. 6
31	栃木県	浙江省	1993. 10. 13
32	香川県	陝西省	1994. 4. 22
33	高知県	安徽省	1994. 11. 8
34	沖縄県	福建省	1997. 9. 4

(6) 日中知事交流実績一覧

		期間	団名	団長	構成員	訪問先
1	第1回 訪中	昭49(1974) 8.20~8.31 (12日間)	全国知事会 代表知事団	前半: 桑原幹根愛知県知事 (会長) 後半: 奥田良三奈良県知事 (副会長)	知事4名 愛知県 奈良県 高知県 広島県 副知事3名 宮城県 神奈川県 熊本県 随員5名 計12名	北京市 遼寧省(瀋陽) 上海市 浙江省(杭州) 広東省(広州)
2	第1回 来日	昭53(1978) 10.21~11.6 (17日間)	中国省市責 任者訪日代 表団	万里 安徽省革命委員会主任	省革命委員会主任1名 安徽省 省市副主任6名 黒龍江省 河北省 湖南省 北京市 甘肅省 四川省 随員4名 計11名	東京都 茨城県 福岡県 広島県 奈良県 京都府 愛知県 神奈川県
3	第2回 訪中	昭55(1980) 10.27~11.8 (13日間)	全国知事会 訪中代表団	武市恭信 徳島県知事	知事1名 徳島県 副知事4名 岡山県 大阪府 京都府 兵庫県 随員2名 計7名	北京市 四川省(成都) 上海市 浙江省(杭州) 江蘇省(蘇州)
4	第2回 来日	昭59(1984) 4.7~4.20 (14日間)	第二次中国 省長訪日代 表団	布赫 内蒙古自治区主席	省長3名 内蒙古自治区 河南省 江西省 副省長2名 遼寧省 新疆ウイグル自治区 随員4名 計9名	東京都 神奈川県 京都府 兵庫県 熊本県 長崎県
5	第3回 訪中	昭61(1986) 5.19~5.29 (11日間)	第三次全国 知事会訪中 代表団	前半: 鈴木俊一東京都知事 (会長) 後半: 長野士郎岡山県知事	知事3名 東京都 岡山県 栃木県 副知事2名 香川県 鹿児島県 随員4名 計9名	北京市 陝西省(西安) 浙江省(杭州) 江蘇省(蘇州) 上海市
6	第3回 来日	平2(1990) 10.11~10.21 (11日間)	第三次中国 省長訪日代 表団	白立忱 寧夏回族自治区主席	省長1名 寧夏回族自治区 副省長4名 雲南省 青海省 貴州省 吉林省 随員3名 計8名	東京都 栃木県 香川県 岡山県 奈良県 大阪府

		期間	団名	団長	構成員	訪問先
7	第4回訪中	平3(1991) 8.3~8.13 (11日間)	第四次全国 知事会訪中 代表団	西尾邑次 鳥取県知事	知事1名 鳥取県 副知事5名 東京都 兵庫県 山口県 随員3名 愛知県 岡山県 計9名	北京市 甘肅省 (蘭州・敦煌) 陝西省(西安) 上海市
8	第4回来日	平5(1993) 11.8~11.18 (11日間)	第四次中国 省長訪日代 表団	賈志傑 湖北省省長	省長2名 湖北省 広西チワン族自治区 副省長4名 福建省 山東省 随員4名 山西省 安徽省 計10名	福岡県 山口県 鳥取県 福島県 東京都
9	第5回訪中	平7(1995) 5.29~6.8 (11日間)	第五次全国 知事会訪中 代表団	圓藤寿穂 徳島県知事	知事1名 徳島県 副知事4名 福島県 富山県 随員4名 埼玉県 京都府 計9名	北京市 四川省(重慶) 荆沙市 湖北省(武漢) 広東省 (広州・深二) 香港
10	第5回来日	平9(1997) 5.13~5.22 (10日間)	第五次中国 省長訪日代 表団	呉亦侠 貴州省省長	省長1名 貴州省 副省長5名 黒龍江省 江西省 海南省 随員3名 河北省 湖南省 計9名	東京都 埼玉県 群馬県 京都府 大阪府 奈良県
11	第6回訪中	平11(1999) 5.31~6.8 (9日間)	全国知事会 第六次訪中 代表団	土屋義彦 埼玉県知事 (会長)	知事1名 埼玉県 副知事3名 栃木県 兵庫県 出納長1名 京都府 随員6名 岐阜県 計11名	大連市 北京市 雲南省(昆明) 上海市
12	第6回来日	平14(2002) 5.7~5.16 (10日間)	第六次中国 省長訪日代 表団	陸浩 甘肅省省長	省長1名 甘肅省 副主席1名 チベット自治区 副省長2名 吉林省 副団長1名 随員3名 山東省 計8名	埼玉県 山形県 北海道